

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

韓国の雇用は底堅いが、先行きに懸念も(Asia Weekly (12/12~12/16))

～シンガポールの内・外需は比較的堅調を保っている～

発表日:2011年12月19日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

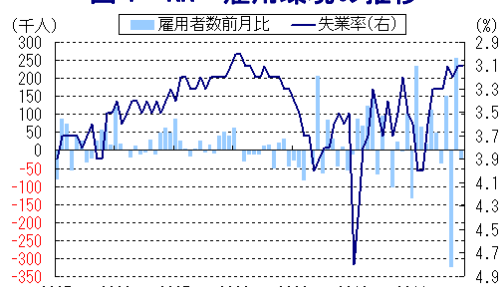
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/12 (月)	(インド) 10月鉱工業生産 (前年比)	▲5.1%	▲0.7%	+1.9%
12/14 (水)	(韓国) 11月失業率 (季調済)	3.1%	3.2%	3.1%
	(インド) 11月卸売物価 (前年比)	+9.11%	+9.04%	+9.73%
12/15 (木)	(シンガポール) 10月小売売上高 (前年比)	+8.5%	+1.3%	+0.2%
	(前月比/季調済)	+6.1%	▲1.2%	+0.7%
	(フィリピン) 10月海外労働者送金 (前年比)	+6.2%	--	+8.4%
12/16 (金)	(シンガポール) 11月非石油輸出 (前年比)	+1.6%	▲1.2%	▲16.3%
	(前月比/季調済)	+5.9%	+2.7%	▲6.0%
	(インド) 金融政策委員会 (レポ金利)	8.50%	8.50%	8.50%
	(リバースレポ金利)	7.50%	7.50%	7.50%
	(現金準備率)	6.00%	6.00%	6.00%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【韓国】 ～失業率は横這いと雇用環境は底堅いが、先行きは輸出減速により調整圧力が高まろう～

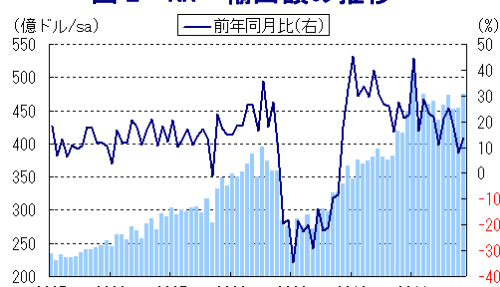
14日に発表された11月の失業率は9.1%となり、前月と同じであった。雇用者数は前月比▲2.2万人と2ヶ月ぶりに減少に転じたものの、失業者数も前月比▲0.4万人と2ヶ月連続で減少している。世界経済の減速による輸出鈍化が懸念されているが、足下のウォン安が輸出競争力の向上をもたらしており、急激な生産調整を免れている。一方、雇用者数の4割近くは非正規雇用者であり、足下の低い失業率は労働参加率の低下によるものである。相当数が求職をあきらめている実態を鑑みれば、雇用の状況はより厳しいものとなっており、先行きは輸出の減速とともに雇用環境の悪化が危惧されよう。

図1 KR 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR 輸出額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

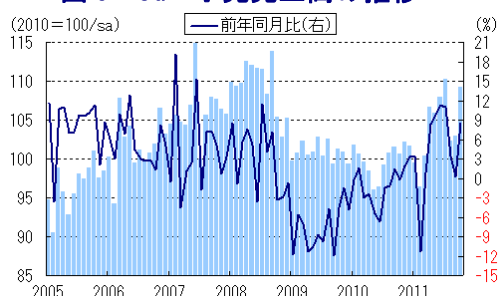
【シンガポール】 ～世界経済減速の悪影響は懸念されるが、足下の内・外需は底堅さが続いている～

15日に発表された10月の小売売上高は前年同月比+8.5%となり、前月(同+0.2%)から加速した。前月比も+6.1%と前月(同+0.7%)から拡大ペースが加速しており、足下の雇用・所得環境の堅調やインフレ圧力の後退が消費の押し上げに繋がっている。実質ベースでは前月比+6.6%と前月(同▲0.4%)から増加に転じており、自動車販売が同+15.4%と大きく増加したことが全体をけん引した。なお、足下では国際金融市場

の混乱でSGドル安が進んでおり、輸入物価を通じてインフレ圧力となる懸念もあり、先行きの個人消費の重石になる可能性はあろう。

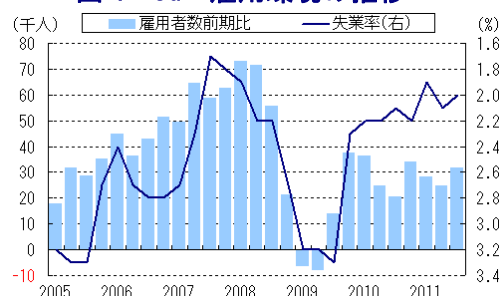
16日に発表された11月の非石油輸出額は前年同月比+1.6%となり、3ヶ月ぶりにプラスに転じた。前月比も+5.9%と3ヶ月ぶりに増加しており、タイの洪水復興に伴う需要拡大などが下支えしている。総輸出額も前年同月比+8.2%と前月（同+1.9%）から加速しており、前月比も+0.2%と緩やかに拡大している。一方の輸入額も前年同月比+17.0%と前月（同+8.6%）から加速し、前月比も+8.4%と前月（同+1.8%）に続いて増加するなど底堅く推移している。結果、貿易収支は+12.62億SGドルと前月（+48.13億SGドル）から黒字幅が縮小した。

図3 SG 小売売上高の推移



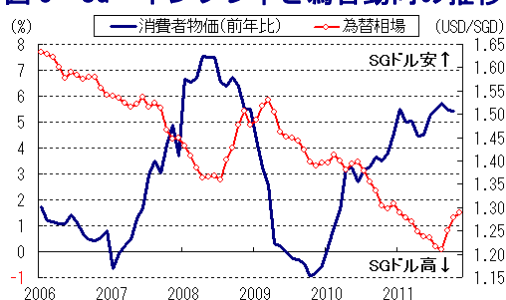
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 SG 雇用環境の推移



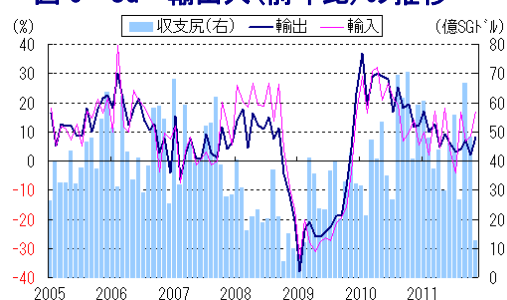
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 SG インフレ率と為替動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 輸出入(前年比)の推移

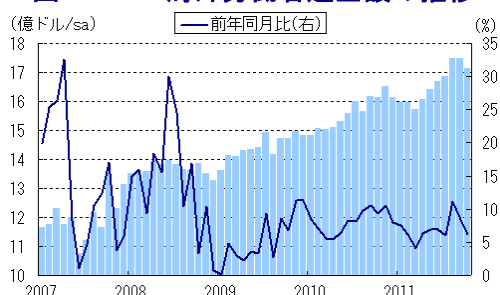


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【フィリピン】 ~世界経済の減速による悪影響は懸念されるが、底堅い送金が景気を下支えしている~

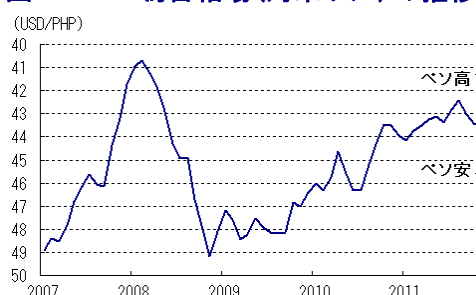
15日に発表された10月の海外労働者送金額は前年同月比+6.2%となり、前月（同+8.4%）から減速した。ただし、単月ベースでは過去最高となり、国際金融市場の混乱でペソ安圧力が掛かり易いにも拘らず為替レートは支えられている。物価や金利の上昇、海外経済の減速による景気への悪影響が懸念されるものの、堅調な送金流入は景気を下支えしている。

図7 PH 海外労働者送金額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 PH 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上